

依然として燃料・原材料価格の高騰、人手不足が続く

6月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

燃料・原材料価格の高騰、人手不足が依然として続いており、業況に大きな影響を及ぼしている様子がうかがえる。その他、例年よりも雨の日が少なく、気温の高い日が続いたことによる影響が多くの業種で見受けられる。また、一部の業種では大阪北部地震に伴うブロック塀倒壊事故の影響も見られる。

製造業	食料品		パン・菓子は、月後半に好天の影響で気温が上昇したことにより売上が伸び悩む。製麺は、大手製麺企業やコンビニ向け調理麺が好調な一方、県内中小企業は依然として厳しい状況。酒造は、純米吟醸酒の売上が好調。食肉は、前年に比べ豚肉相場が下落しており、売上・収益ともに減少となる。
	繊維・同製品		桐生織物は、和装織物の浴衣関連が取引先の在庫過多により苦戦、婦人服地・輸出向けも低調な引き合いとなっている。伊勢崎織物は、業況に厳しさが見られるものの「広巾」については順調な売上を維持。ニットは、冬物商品の出荷を間近に控え期待感。繊維製品は、売上・収益ともに前年並みの状況。
	窯業・土石製品		生コンは、八ッ場ダム関連の出荷が際立って多くなっている一方で、東毛地域での民需が落ち込んでいる。コンクリートブロックは、大阪北部地震でブロック塀が倒壊した事故の影響を懸念。コンクリート製品は、厳しい業況が続いており、停滞感が強い。碎石は、例年より受注が少なく出荷量は低調に推移。
	機械・金属		全般的には、好調な業績を背景に人手不足感が強まっている。SUBARU関連は、新車投入効果が薄れていることに加え、新たなデータ改ざん問題の発覚により国内外ともに販売台数は減少傾向となっている。鍍金は、依然として原材料価格の高騰が続いており、収益を圧迫している様子がうかがえる。
	その他の製造業		木材は、荷動き自体は悪くないが、銘柄によって格差が見られる。印刷は、全体的に受注が増加してきており、先行きに明るさが見られる。紙加工品は、主力の食品・飲料関連の受注が本格化する時期であるが、動きが鈍い状況。ゴム製品は、売上・収益ともに前年並の推移となっている。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は、合同企業説明会を開催するなど求人活動に力を入れているものの苦戦を強いられており、依然として深刻な人手不足が続いている。前橋卸団地は、原材料価格の高騰と人手不足への対応に苦慮。農産物卸は、順調な出荷状況となっているが、梅雨明けが早まったことで農作物への影響を懸念。
	小売業		家電小売は、例年より早い梅雨明けで、エアコンをはじめとする夏物商品に動きが見られる。燃料小売は、販売価格の上昇が続いており、夏場の需要の減少を懸念。生花小売は、プライダルや「父の日」需要もさほどなく、売上は例年並み。商店街は、一部にイベント等での集客が見られるが、全体的な景況はいまひとつ。
	サービス業		温泉旅館は、前年に比べ多くの地域で入込数の減少が見られる。利根・沼田地域における不動産取引は、住宅向け分譲地の販売不振が続く一方、観光業に従事する季節労働者向け賃貸居住物件が良好な取引となっている。自動車整備・建築設計は、ともに売上・収益ともに前年並みの状況。
	建設業		解体工事は、大阪北部地震に伴うブロック塀倒壊事故の影響で、ブロック塀解体工事の依頼が急増。電気工事は、安定した受注状況である反面、人手不足に苦慮。鉄構は、ゼネコンの人手不足の影響で設計図面の遅れによる工期の遅延が生じている。塗装工事は、仕事量が若干減少するものの、前年並みの利益率を確保。
	運輸業		例年に比べ雨の日が少なく梅雨明けも早かった影響で、飲料水関係が大幅な出荷増となるが、全体的な荷動きは低調。運転手不足と燃料価格の高止まりが収益を圧迫。小口配送は、PET検査薬が前年並みとなるが、建材・自動車部品・食料品関連が減少したことで、全体的に売上高・件数ともに減少となる。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 109.3(前月比▲5.8%)「県統計課・5月」
- 住宅着工戸数 1,043戸(前年同月比▲17.0%)「県建築住宅課・5月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.34倍・有効1.74倍「群馬労働局・5月」
 - 大型小売店販売額 204億円(前年同月比+0.1%)「経済産業省・5月」
 - 消費者物価指数(全国) 101.0(前年同月比+0.7%)「総務省統計局・5月」
- (鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)